

世界に誇れる極上の会津米づくり

「目指そう 今年も特A 会津コシ1等米 100%」

両沼地方米づくり情報 第1号 平成28年4月13日

発行：JA会津よつば営農部・各支店、会津坂下農業普及所・金山普及所

1 気象情報 (平成28年4月7日 仙台管区気象台発表「東北地方1か月予報」より抜粋)

<4月9日から5月8日までの天候見通し>

天気は数日の周期で変わりますが、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。
向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

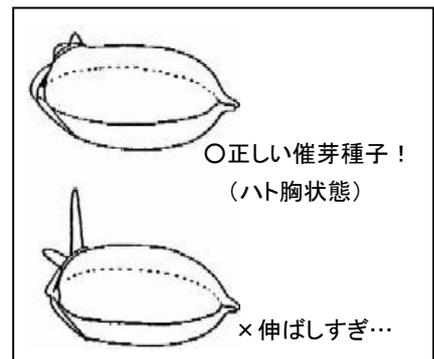
2 催芽～出芽までの管理

(1) 催芽

催芽温度はもみ枯細菌病対策として28℃とし、ハト胸状態まで均一に催芽しましょう。

温度ムラなく袋の内部まで均一になるように薄く広げましょう。

※30℃以上ではもみ枯細菌病が発生しやすくなります！



(2) 播種

植え付け時の苗の種類に応じて、適正な播種量を守りましょう(下表参考)。

苗種	播種量(催芽粃 g/箱)	育苗日数(日)	葉数(葉)
稚苗	200	20~25	2. 5前後
中苗	100	30~35	3. 5前後

播種時に苗立枯病の防除を行う場合は、病原菌により効果のある薬剤が違いますので、下の表1を参考に薬剤防除しましょう。

表1 苗立枯病に登録のある薬剤(例)

農薬名	適用病害虫名 使用目的	使用時期	使用方法	使用回数
ダコニール1000	苗立枯病 (リゾプス菌)	は種時から緑化期 (但し、は種14日後まで)	育苗箱1箱あたり500~1000倍液0.5Lまたは、1000~2000倍液1Lを土壌かん注する。	2回以内
タチガレエースM液剤	苗立枯病 (フザリウム菌) (ピシウム菌) ムレ苗防止 根の生育促進 移植時の活着促進	は種時または 発芽後	育苗箱1箱あたり500~1000倍液0.5Lを土壌かん注する。	1回
		は種時	育苗箱1箱あたり1000倍液1Lを土壌かん注する。	

※農薬を使用する際は、必ずラベルをよく読んで、使用基準を守りましょう。

(3) 出芽

育苗器を利用する場合は温度を28℃に設定し、5mm~10mmを目安に芽が伸びすぎないように注意しつつ行いましょう。28℃以上の高温には絶対にしないこと!

被覆資材を利用した無加温出芽では、28℃目安の温度管理をさらに注意深く行いましょう。

☆春の農作業安全運動期間中です! [4/1~5/31]
安全な農作業を心掛けましょう。



3 緑化～硬化期の管理

(1) 苗が緑色を帯びるまで

白化苗防止のため、1葉期までは強い光に急に当てないようにしましょう。昼間 25℃、夜間 15℃を目安として高温による苗ヤケと、低温によるムレ苗を防ぎましょう。

播種時に苗立枯病防除をしていない場合はこの時期に実施しましょう。

(2) 1.5葉期から

苗が緑色になったら平張りをはずして十分日光に当てます。昼 20～25℃、夜間 10～15℃を目安に、徐々に自然環境に順応させましょう。

(3) 温度管理

ハウスやトンネル内の温度計は苗の高さに設置して温度管理を行います。晴天時はハウス内の温度が朝は急に上がり、夜は急に下がるので、ハウスの開け閉めを行う時間を早くしましょう。

**◎日中の育苗ハウス内等の高温による苗ヤケや病害虫の発生にご注意ください！
適正な温度管理により、健苗育成に努めましょう！**

(4) 灌水

原則1日1回、朝にたっぷりと灌水します。万一乾いた場合には昼頃に追加灌水します。夕方の灌水は地温を下げ、根張りを悪くするので行わないようにしましょう。

4 育苗期に注意すべき病害

病名	発生の様子(症状)	防除法、対処法
リゾプス属菌による立枯病	出芽～緑化時に箱全体が白カビで覆われる。	出芽期 32℃以上の高温、緑化期以降 10℃以下の低温、過湿を避ける。 ダコニール 1000 による薬剤防除(表 1 参照)。
ピシウム属菌による立枯病	地際部にはカビが見えない。苗が円形またはドーナツ状に枯れる。	特に 10℃以下の低温を避ける。 タチガレエース M 液剤による薬剤防除(表 1 参照)。
ピシウム属菌による立枯病(ムレ苗)	急にしおれ、根の活力が弱り、葉がコヨリ状に巻いて枯死する。	5℃以下の低温にあてない。霜注意報が発令された場合、早めにハウスの裾を閉め、保温に努める。 タチガレエース M 液剤による薬剤防除(表 1 参照)。
もみ枯細菌病	芽は褐色になり、腐敗・枯死する。葉齢が進んだ状態で感染すると、新葉は腐敗し、引っ張ると抜けるようになる。	種子伝染病のため、健全糞の使用、種子消毒による防除が基本である。 催芽・出芽は 28℃以下に管理し、ハウス内は 30℃以上の高温にならないようにする。 発病がみられた箱は、発病していないように見える部分も含めてすべて廃棄し、移植しない。



写真1 苗立枯病(ピシウム属菌)



写真2 もみ枯細菌病



写真3 もみ枯細菌病

☆極上の会津米づくり環境保全対策！稲わら焼却や野焼きは止めましょう。

稲わらは貴重な有機資源です。燃やさずに、水田にすき込むなど有効活用しましょう。農業資材(ビニール等)の野焼きは法律で禁じられています。絶対に行わないで下さい。

御不明な点は最寄りのJA支店または普及所までお問い合わせください。